

【2239】 専門教育科目 専門に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科						
教育法規論			講義	齋藤雅俊	4年	前期	こども発達学科						
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無				
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士					
2	15	30		2	☆				期末試験	55	無		
学士力の分類 当該科目で育成できる主要な分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力			《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定した課題へ適し、その課題を解決する能力》	期末レポート			
	○	○	○	○	—	○	○	○		○	—	—	○
	○	○	○	○	—	○	○	○		○	○	—	○
	○	○	○	○	—	○	○	○		○	○	—	○
当該科目のキーワード	≪知識・理解≫ 教育法規についての理解		≪汎用的技能≫ 前項目について口頭、文章等で説明			≪態度・志向性≫			期末試験	55	無		
	≪知識・理解≫ 教育法規についての理解		≪汎用的技能≫ 前項目について口頭、文章等で説明			≪態度・志向性≫			期末レポート				
	≪知識・理解≫ 教育法規についての理解		≪汎用的技能≫ 前項目について口頭、文章等で説明			≪態度・志向性≫			授業内小テスト				
授業概要	第二次世界大戦後、日本は教育に関して大きな転換を求められた。そのうちの 하나가、教育に関する「勅令主義」から「法律主義」への変更である。このことにより、日本は民主的な国家づくりを志向していくことになった。本科目ではそのような背景も含めて、繰々変更・改訂されてゆく教育法規の概要から今後の展望までを広い視野で学んでいく。								授業内提出物	45	有		
	第二次世界大戦後、日本は教育に関して大きな転換を求められた。そのうちの 하나가、教育に関する「勅令主義」から「法律主義」への変更である。このことにより、日本は民主的な国家づくりを志向していくことになった。本科目ではそのような背景も含めて、繰々変更・改訂されてゆく教育法規の概要から今後の展望までを広い視野で学んでいく。								授業内活動				
授業の到達目標	教育実践のための基礎力を身につけるために、 ①教育法規について理解する。 ②前項目について理解・修得したことを授業内で口頭発表したり、試験・レポート等で論述できる。								その他				
	教育実践のための基礎力を身につけるために、 ①教育法規について理解する。 ②前項目について理解・修得したことを授業内で口頭発表したり、試験・レポート等で論述できる。								計	100			
単位認定の要件	期末試験(55点) + コメントペーパー等授業内提出物(3点 × 15回分) = 60点以上								フィードバックの方法				
	期末試験(55点) + コメントペーパー等授業内提出物(3点 × 15回分) = 60点以上								コメントペーパー返却				
授業計画 (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容											
	1	オリエンテーション・教育法規とは？ 予習：Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習：授業内で分からなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)											
	2	教育法規をめぐる最近の動き 予習：Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習：授業内で分からなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)											
	3	教育行財政に関する法規 予習：Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習：授業内で分からなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)											
	4	学校のしくみに関する法規 予習：Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習：授業内で分からなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)											
	5	教育課程に関する法規 予習：Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習：授業内で分からなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)											
	6	義務教育に関する法規(1) 予習：Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習：授業内で分からなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)											
	7	義務教育に関する法規(2) 予習：Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習：授業内で分からなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)											
	8	教職員の資格と免許・職務に関する法規 予習：Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習：授業内で分からなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)											
	9	教職員の人事・服務・評価に関する法規 予習：Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習：授業内で分からなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)											
	10	教職員の勤務に関する法規 予習：Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習：授業内で分からなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)											
	11	児童・生徒に関する法規(1) 予習：Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習：授業内で分からなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)											
	12	児童・生徒に関する法規(2) 予習：Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習：授業内で分からなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)											
	13	特別支援教育に関する法規 予習：Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習：授業内で分からなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)											
	14	学校保健安全に関する法規 予習：Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習：授業内で分からなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)											
	15	まとめ・今後の改革の展望 予習：Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習：授業内で分からなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)											
教科書・教材	特になし												
参考書・参考文献等	『教育小六法 2025年版』(学陽書房)等。また、パワーポイントによるまとめプリントを配布する。なお、配布物が多いため、各自綴じするためのファイルを用意すること。												
履修上の注意等	新聞・テレビ等の教育関連情報に関心をはらうこと。また、出欠の不正(中抜け、無断退出、代返、コメントペーパー代筆、他人のコメントペーパーを参考にする等)の他、成績に関わる全ての不正については単位認定を不可とする。												
実務経験との関連	実務経験の有無	無											

[2240] 専門教育科目 専門に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科					
教育史			講義	齋藤雅俊	4年	前期	こども発達学科					
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無			
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士				
2	15	30		2		☆			□	期末試験		
学士力の分類 当該科目で育成できる主要な分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力					《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定し、適切な課題へ適用し、その課題を解決する能力》	期末レポート 55 無 授業内小テスト 授業内提出物 45 有 授業内活動 その他
	○ ○ ○		○ — — ○ ○			○ — — — — ○					計 100	
	フィードバックの方法											
	コメントペーパー返却											
	アクティブラーニングの有無(内容)									無		
当該科目のキーワード	≪知識・理解≫ ≪汎用的技能≫ ≪態度・志向性≫		教育史の歩みについての理解 前項目について口頭、文章等で説明							アクティブラーニングの有無(内容) 無		
授業概要	「教育原理」で概説した教育思想の流れを振り返り、再確認しながら、より発展的で深い教育史の知識に触れていく。そして、その時代ごとに要請された教育のあり方、数多の教育者・教育学者たちによる試行錯誤の軌跡を辿ることで、これからの教育が進むべき道、さらには各々が目指す教師としてのあり方についても考えを深めていく。											
授業の到達目標	教育実践のための基礎力を身につけるために、 ①これまでの教育史の歩みについて理解する。 ②前項目について理解・修得したことを授業内で口頭発表したり、試験・レポート等で論述できる。											
単位認定の要件	期末レポート(55点) + コメントペーパー等授業内提出物(3点×15回分) = 60点以上											
授業計画 (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容										
	1	日本教育史 古代の教育(飛鳥～奈良～平安時代の教育) 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)										
	2	中世の教育(鎌倉～室町時代の教育) 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)										
	3	近世の教育(江戸時代の教育、藩校・寺子屋・私塾等) 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)										
	4	近代の教育(1)(明治時代の教育) 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)										
	5	近代の教育(2)(大正時代の教育) 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)										
	6	近代の教育(3)(昭和戦前時代の教育) 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)										
	7	現代の教育(1)(第二次世界大戦後の民主主義教育) 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)										
	8	現代の教育(2)(高度経済成長期～平成) 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)										
	9	西洋教育史 古代の教育(ギリシア・ローマの教育) 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)										
	10	中世の教育(キリスト教、騎士の教育、大学の誕生、市民の教育) 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)										
	11	近世の教育(ルネサンス・宗教改革と教育、自然科学の発達と教育) 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)										
	12	近代の教育(1)(実学主義、敬虔主義、啓蒙主義) 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)										
	13	近代の教育(2)(新人文主義、市民・産業革命と教育、近代公教育制度の確立) 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)										
	14	現代の教育(1)(新教育運動の拡がり) 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)										
	15	現代の教育(2)(第二次大戦後の教育改革) 予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。(60分) 復習: 授業内で分らなかったことがあればインターネット等で検索する。(60分)										
教科書・教材	特になし											
参考書・参考文献等	『オープンセサミシリーズ 教職教養Ⅰ[教育原理 教育史]』東京アカデミー等。また、パワーポイントによるまとめプリントを配布する。なお、配布物が多いため、各自綴じるためのファイルを用意すること。											
履修上の注意等	新聞・テレビ等の教育関連情報に関心をはらうこと。また、出欠の不正(中抜け、無断退出、代返、コメントペーパー代筆、他人のコメントペーパーを参考にする等)の他、成績に関わる全ての不正については単位認定を不可とする。											
実務経験との関連	実務経験の有無	無										

【2243】 専門教育科目 専門に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科													
教育方法演習A			演習	一戸智之・杉本久美子	4年	前期	こども発達学科													
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無											
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士												
2	15	30		2	☆				期末試験	無										
学士力の分類 当該科目で育成 できる主要な 分類項目	《知識・理解》		《汎用的技能》			《態度・志向性》					期末レポート	無								
	基礎知識の体系的 理解	多文化・異文化 文化・社会・自然	コミュニケー ションスキル	数量的 スキル	情報リテラシ ー	論理的 思考力	問題 解決力	自己 管理力	チ ーム ワ ー ク	リ ー ダ ー シ ッ プ	倫 理 観	社 会 的 責 任	生 涯 学 習 力	《獲得した能 力を総合的 に利用し、 自ら設定し た課題へ適 用し、その 課題を解決 する能力》	授業内小テスト	無				
	○	—	○	—	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	授業内提出物	20	有
																		その他	80	有
																		計	100	無
																		フィードバックの方法		
当該科目の キーワード	《知識・理解》		各教科の教育方法に関する学修を通して得た基礎知識の体系的理解								授業内提出物等については返却す る。									
	《汎用的技能》		アクティブラーニングによる論理的思考力と問題解決力の形成								アクティブラーニングの有無 (内容)		有							
	《態度・志向性》																			
授業概要	3年次までに学修した小学校の各教科教育法の内容を補完することを目的として開講する。演習を中心として、教科等を学ぶ意義、各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実、児童の発達を踏まえた指導、学習評価、学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策等について理解を促し、実際の教育現場を想定した教育方法・技術論について解説する。									グループワーク、グループディス カッション、模擬授業										
授業の 到達目標	①学習指導要領における目標および内容を正しく理解し、その構成と教育的意義を適切に説明できる。 ②教科独自の「見方・考え方」の本質を捉え、児童の深い学びを実現するための授業設計のポイントを具体的に提示できる。 ③学力の三要素および主体的・対話的で深い学びの視点に基づいた指導案を作成し、模擬授業等の実践を通して、効果的な指導技術を展開できる。																			
単位認定の要件	担当教員が各回ごとに評価を行い、その平均を最終的な総合評価とする。																			
授業計画 (予習、復習の内 容・時間含む)	回	内 容																		
	1	授業概要説明、小学校英語教育(現状と各指導方法について)※1~8では模擬授業とワークショップ、指導案作成を含む。 予習:(45分)初回は「小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編」の学校段階別の目標および5つの領域別の目標内容の確認。 復習:(45分)本時の学習内容の復習と定着を図る。 ※予習に関しては以降各回の授業内にて指示。復習は各回同様。																		
	2	インプットを意識した英語の授業:児童に英語の音声や文の仕組みを気付かせる指導方法 予習:(45分)外国語(英語)教育法で学んだ指導方法を再度確認する。 復習:(45分)本時の学習内容の復習と定着を図る。																		
	3	インタラクティブに重点をおいた英語の授業:教師と児童、児童どうしの英語のやり取りを促すタスクを活用する方法 予習:(45分)前時で学んだ指導方法を実践できるようにする。 復習:(45分)本時の学習内容の復習と定着を図る。																		
	4	2つの思考スキル(CLI)における高次と低次の思考スキルを取り入れた英語の授業:学習内容と言語を絡み合わせる教材・指導方法 予習:(45分)前時で学んだ指導方法を実践できるようにする。 復習:(45分)本時の学習内容の復習と定着を図る。																		
	5	音声から読み書きへ、音声から文字への5段階の活用/教科・言語の両面からの評価/アセスメントの種類とそれらの活用した授業について 予習:(45分)前時で学んだ指導方法を実践できるようにする。 復習:(45分)本時の学習内容の復習と定着を図る。																		
	6	英語絵本の読み聞かせ:選別方法の確認と実践にむけての準備 予習:(45分)前時で学んだ指導方法を実践できるようにする。 復習:(45分)本時の学習内容の復習と定着を図る。発表内容について評価・コメントをする。																		
	7	英語絵本の読み聞かせ(実践)読み聞かせの実演と選別理由について説明する。 予習:(45分)前時で学んだ指導方法を実践できるようにする。 復習:(45分)本時の学習内容の復習と定着を図る。																		
	8	言語活動を通してコミュニケーション能力を養い、文化理解を深める授業づくり(全8回総括) 予習:(45分)前時で学んだ指導方法を実践できるようにする。 復習:(45分)本時の学習内容および1~7回までの学習内容を再度復習し定着を図る。																		
	9	授業の目的と概要~[共通事項]を軸とした授業設計と模擬授業の準備 予習:(60分)「小学校学習指導要領解説 音楽編」を再読し、[共通事項]の要素と各領域の活動がいかにかに連結しているかを確認する。 復習:(30分)模擬授業に向け、特定の学年と教材を選択し、本時の主題となる音楽的特徴を明確にした指導の構想を立案する。																		
	10	弾き歌い実践①~「弾き歌い」の基本技術とリズム感の養成 予習:(60分)リズム感を向上させるための練習方法やリズムパターンについて考察し、適切な歌唱姿勢や音楽表現の基本を確認する。 復習:(30分)弾き歌いの実践経験を振り返り、成功した技術と改善の余地を検証し、課題を把握する。																		
	11	模擬授業の実践①~歌唱・器楽を中心とした表現活動と対話を促す指導法 予習:(60分)担当教材の楽曲分析を行い、児童の多様な表現を引き出すための具体的な発問や指示、提示資料の準備を行う 復習:(30分)模擬授業での自身の立ち居振る舞いや言葉掛けを省察し、児童の反応に応じた柔軟な指導の在り方について考察する。																		
	12	弾き歌い実践②~技術の習得と表現力向上のための個人レッスン 予習:(60分)自身の演奏や歌唱技術の現状を客観的に評価し、改善すべき点を洗い出すとともに、それらに対する対策を考える。 復習:(30分)取り組んだ技術や表現力の向上に関する成果を振り返り、次回の練習や授業に生かすためのアクションプランを立てる。																		
	13	模擬授業の実践②~鑑賞・音楽づくりにおける教材提示と教員の有効活用 予習:(60分)児童が音楽の仕組みを視覚的・聴覚的に理解できるようなワークシートやICT教材、教具の活用計画を策定する。 復習:(30分)授業の導入から展開における「教材との出会わせ方」を検証し、音楽的な思考を深めるための改善点を明確にする。																		
	14	模擬授業の実践③~創造的な音楽体験の提供と学習状況を捉える評価の充実 予習:(60分)クリエイティブな活動における「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」の評価規準を指導案に具体的に記述する 復習:(30分)全3回の模擬授業を総括し、指導と評価の一体化に向けた課題を整理するとともに、今後の実践への指針をまとめる。																		
	15	弾き歌い実践③~個人弾き歌い発表会:表現の深化と実践的演奏技術の統合 予習:(60分)選択した教材曲の完成度を高めるための個人練習を行う。歌詞の解釈に基づいた表現の工夫を最終確認する。 復習:(30分)発表会での演奏を客観的に省察し、自己の課題と成果を整理する。また、他者の演奏から得た表現技法を今後の指導に生かす。																		
教科書・教材	授業内で適宜紹介する																			
参考書・ 参考文献等	授業内で適宜紹介する																			
履修上の 注意等	3年次までに学修した教科教育法を補完することを目的として開講するため、各教科の指導法に関して、さらに理解の質を高め、実践的指導力の向上をめざしたい学生は履修することが望ましい。																			
実務経験との 関連	実務経験 の有無	無																		

【2244】 専門教育科目 専門に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科				
教育方法演習B			演習	齋藤雅俊・葛西美樹・工藤寧子・澤村美千代	4年	前期	こども発達学科				
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法とフィードバックの有無		
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士			
2	15	30		2	☆						
学士力の分類 当該科目で育成できる主要な分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力			《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定し、自ら課題へ適し、その課題を解決する能力》	期末試験	無
										期末レポート	無
										授業内小テスト	無
										授業内提出物	20
								授業内活動		80	有
								その他			無
								計	100		
								フィードバックの方法			
								○			
当該科目のキーワード	≪知識・理解≫		各教科の教教育法に関する学修を通して得た基礎知識の体系的理解							授業内提出物等については返却する。	
	≪汎用的技能≫		アクティブラーニングによる論理的思考力と問題解決力の形成								
	≪態度・志向性≫										
授業概要	3年次までに学修した小学校の各教科教育法の内容を補完することを目的として開講する。演習を中心として、教科等を学ぶ意義、各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実、児童の発達を踏まえた指導、学習評価、学習指導要領等理念を実現するために必要な方策等について理解を図り、実際の教育現場を想定した教育方法・技術の獲得をめざす。									模擬授業等	
授業の到達目標	大綱的な基準である各教科の学習指導要領の目標や内容の理解 本質的な意義の中核をなし、深い学びの鍵となる各教科の「見方・考え方」の理解 主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた実践的な教育方法・技術の体得										
単位認定の要件	担当教員が各回ごとに評価を行い、その平均を最終的な総合的評価とする。										
授業計画 (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容									
	1	国語科の模擬授業に向けた教材研究と学習指導案の作成 —理論と実践— 予習:(40分)教材研究と学習指導案の既習事項を確認し、初回の授業に持参すること 復習:(60分)各自、模擬授業のための学習指導案を完成させ、準備を万全にしておくこと									
	2	国語科の模擬授業発表(第1グループ)とその模擬授業に対する批評 予習:(60分)第1グループの選定した教材について、内容や学年、学習指導要領などを事前に調べて知識を得ておくこと 復習:(30分)第1グループの模擬授業発表と、その模擬授業に対する批評から学んだことを箇条書きに整理すること									
	3	国語科の模擬授業発表(第2グループ)とその模擬授業に対する批評 予習:(60分)第2グループの選定した教材について、内容や学年、学習指導要領などを事前に調べて知識を得ておくこと 復習:(30分)第2グループの模擬授業の発表と、その模擬授業に対する批評から学んだことを箇条書きに整理すること									
	4	国語科の模擬授業発表(第3グループ)とその模擬授業に対する批評 予習:(60分)第3グループの選定した教材について、内容や学年、学習指導要領などを事前に調べて知識を得ておくこと 復習:(30分)第3グループの模擬授業の発表と、その模擬授業に対する批評から学んだことを箇条書きに整理すること									
	5	国語科の教材研究と学習指導案の作成について(まとめ) 予習:(60分)他の学習指導案と模擬授業を比べて、自分の意見をまとめておくこと 復習:(30分)全5回に渡る授業を通して、国語科の授業を行う上で留意すべき点を箇条書きに整理すること									
	6	「協力・協働」の視点を踏まえた家庭科の授業づくり 予習:(60分)学習内容の確認と学習指導案の作成 復習:(30分)模擬授業の振り返り									
	7	「健康・快適・安全」の視点を踏まえた家庭科の授業づくり 予習:(60分)学習内容の確認と学習指導案の作成 復習:(30分)模擬授業の振り返り									
	8	「生活文化の継承・創造」の視点を踏まえた家庭科の授業づくり 予習:(60分)学習内容の確認と学習指導案の作成 復習:(30分)模擬授業の振り返り									
	9	「持続可能な社会の構築」の視点を踏まえた家庭科の授業づくり 予習:(60分)学習内容の確認と学習指導案の作成 復習:(30分)模擬授業の振り返り									
	10	実践的・体験的な活動に主点を置いた家庭科の授業づくり 予習:(60分)学習内容の確認と学習指導案の作成 復習:(30分)模擬授業全体の振り返り									
	11	「道徳教育アーカイブ」でみる道徳科の授業実践 予習:なし 復習:なし									
	12	「A 主として自分自身に関すること」の視点を踏まえた道徳科の授業づくり 予習:(60分)模擬授業の準備 復習:(30分)模擬授業の振り返り									
	13	「B 主として人との関わりに関すること」の視点を踏まえた道徳科の授業づくり 予習:(60分)模擬授業の準備 復習:(30分)模擬授業の振り返り									
	14	「C 主として集団や社会に関すること」の視点を踏まえた道徳科の授業づくり 予習:(60分)模擬授業の準備 復習:(30分)模擬授業の振り返り									
	15	「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の視点を踏まえた道徳科の授業づくり 予習:(60分)模擬授業の準備 復習:(30分)模擬授業の振り返り									
教科書・教材	授業内で適宜紹介する。										
参考書・参考文献等	授業内で適宜紹介する。										
履修上の注意等	3年次までに学修した教科教育法を補完することを目的として開講するため、各教科の指導法に関して、さらに理解の質を高め、実践的指導力の向上をめざしたい学生は履修することが望ましい。										
実務経験との関連	実務経験の有無	有	(澤村)小学校教諭として、小学校での授業、教育委員会の研修会や校内研修会の講師、教育書籍の執筆等の実務経験をもとに、国語科の学習指導案や模擬授業等に対する理解を深め、実践的指導力を身に付ける。								

【2711】 専門教育科目 教育の基礎的理解・実践等に 関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科						
事前事後指導			演習	齋藤昭・教職課程委員会(小)	4年	前期	こども発達学科						
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無				
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士					
1	15	30		1	○								
学士力の分類 当該科目で育成 できる主要な 分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的 理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーション スキル 数量的 スキル 情報リテラシー 論理的 思考力 問題 解決力			≪態度・志向性≫ 自己 管理力 チーム ワーク リーダー シップ 倫理 観 社会的 責任 生涯 学習力			《獲得した能力 を総合的に 利用し、自ら 設定した課題へ適 用し、その 課題を解決 する能力》	期末試験 期末レポート 授業内小テスト 授業内提出物 50 有 授業内活動 50 無 その他			
	○	—	—	○	—	—	○	○		—	○	—	—
当該科目の キーワード	≪知識・理解≫ 目的・意義、規範意識		≪汎用的技能≫ 課題解決の思考			≪態度・志向性≫ 自己改善、他者理解			授業内提出物については、コメント を記入し返却する。質問について は、講義の中で解説していく。				
授業概要	小学校での教育実習の意義と目的を解説する。また、教科・領域等の指導方法や学校生活全般の体験的な学びの中で、実習に臨むときの 問題意識を持つとともに、自らの課題を自覚させる。さらに、指導案の作成と授業、評価の観点、児童とのコミュニケーション方法など、 実習内容に即した演習を通して、自分の目指す教師像、教育観を形成するとともに、討論を通して他の学生が目指している教師像を明確 にさせる。								グループディスカッション、グループ ワーク				
授業の 到達目標	①実習に向けて意義や教科指導・生徒指導(児童理解)について理解し、自らの課題を自覚する。 ②教育実践上の課題を教育現場で克服する方法を考え、実践する素地をつくる。 ③自らの目指す教師像を持つことができ、他者にも伝えることができる。												
単位認定の要件	到達目標の①～③の合計が60点以上												
授業計画 (予習、復習の内 容・時間含む)	回	内 容											
	1	学校教育体験実習直前ガイダンス 予習:(60分)Googleクラスルームに掲載した講義資料に目を通し、自分の考えや疑問点をまとめておく。 復習:(60分)講義資料をもとに講義内容を復習する。											
	2	教育実習の意義 予習:(60分)Googleクラスルームに掲載した講義資料に目を通し、自分の考えや疑問点をまとめておく。 復習:(60分)講義資料をもとに講義内容を復習する。											
	3	教育実習の実際 予習:(60分)Googleクラスルームに掲載した講義資料に目を通し、自分の考えや疑問点をまとめておく。 復習:(60分)講義資料をもとに講義内容を復習する。											
	4	授業記録の取り方・実習録の書き方 予習:(60分)Googleクラスルームに掲載した講義資料に目を通し、自分の考えや疑問点をまとめておく。 復習:(60分)講義資料をもとに講義内容を復習する。											
	5	学校の魅力・教師の魅力・教師の仕事の枠組み 予習:(60分)Googleクラスルームに掲載した講義資料に目を通し、自分の考えや疑問点をまとめておく。 復習:(60分)講義資料をもとに講義内容を復習する。											
	6	学校の組織・校務分掌・保護者・地域連携 予習:(60分)Googleクラスルームに掲載した講義資料に目を通し、自分の考えや疑問点をまとめておく。 復習:(60分)講義資料をもとに講義内容を復習する。											
	7	教師のモラル・学校のルール 予習:(60分)Googleクラスルームに掲載した講義資料に目を通し、自分の考えや疑問点をまとめておく。 復習:(60分)講義資料をもとに講義内容を復習する。											
	8	学級経営の仕方 予習:(60分)Googleクラスルームに掲載した講義資料に目を通し、自分の考えや疑問点をまとめておく。 復習:(60分)講義資料をもとに講義内容を復習する。											
	9	僻地校での教育・複式学級での授業 予習:(60分)Googleクラスルームに掲載した講義資料に目を通し、自分の考えや疑問点をまとめておく。 復習:(60分)講義資料をもとに講義内容を復習する。											
	10	学習指導について 予習:(60分)Googleクラスルームに掲載した講義資料に目を通し、自分の考えや疑問点をまとめておく。 復習:(60分)講義資料をもとに講義内容を復習する。											
	11	学習指導案の作成 予習:(60分)Googleクラスルームに掲載した講義資料に目を通し、自分の考えや疑問点をまとめておく。 復習:(60分)講義資料をもとに講義内容を復習する。											
	12	模擬授業を通して学ぶ1 予習:(60分)Googleクラスルームに掲載した講義資料に目を通し、自分の考えや疑問点をまとめておく。 復習:(60分)講義資料をもとに講義内容を復習する。											
	13	模擬授業を通して学ぶ2 予習:(60分)Googleクラスルームに掲載した講義資料に目を通し、自分の考えや疑問点をまとめておく。 復習:(60分)講義資料をもとに講義内容を復習する。											
	14	教育実習中の生徒指導・特別支援教育との関わり 予習:(60分)Googleクラスルームに掲載した講義資料に目を通し、自分の考えや疑問点をまとめておく。 復習:(60分)講義資料をもとに講義内容を復習する。											
	15	教育実習直前ガイダンス ※事後指導として、実習終了の報告会を予定 予習:(60分)Googleクラスルームに掲載した講義資料に目を通し、自分の考えや疑問点をまとめておく。 復習:(60分)講義資料をもとに講義内容を復習する。											
教科書・教材	適宜資料を配付する。												
参考書・ 参考文献等	・「小学校学習指導要領 総則」(文部科学省) ・「向日葵」(柴田学園大学 子ども発達学科) ・「教育実習ガイド」(時事通信社 玉川大学教師教育センター)												
履修上の 注意等	教育実習と対になっている演習であることから、教育実習の修了者が単位取得できる。またガイダンスが数回予定されているのでシラバスの他に学務課の掲示板で確かめること。												
実務経験との 関連	実務経験 の有無	有	(齋藤昭)公立小学校長の経験を活かし、教育実習の目的、心得、学習指導、生徒指導の方法など、教育実習中の実際の場面に生かしていける講義内容としていく。										

【2712】 専門教育科目 教育の基礎的理解・実践等に 関する科目		授業形態		担当教員名		開講年次	開講時期	開講学科												
教育実習 I		実習		教職課程委員会(小)		4年	前期	こども発達学科												
単位数	授業回数	時間数	卒業要件					免許・資格					単位認定の方法と フィードバックの有無							
			必修		選択			小学校	幼稚園	保育士										
4				4					○					実習校の評価	80	有				
学士力の分類 当該科目で育成 できる主要な 分類項目		《知識・理解》			《汎用的技能》					《態度・志向性》					《獲得した能力を総合的に 利用し自ら設定した課題へ適 用し、その課題を解決する能力》	委員会の評価	20	有		
		基礎知識の体系的理解	多文化・異文化	文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ	倫理観	社会的責任		生涯学習力	その他			
		○	—	—	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○		—	○	計	100	
																		フィードバックの方法		
当該科目の キーワード		《知識・理解》			校務に関する体系的理解・指導力										実習校から返却された実習録の内容 内容確認後、所見とともに返却する。					
		《汎用的技能》			コミュニケーション・スキル															
		《態度・志向性》			教員としての倫理観											アクティブラーニングの有無 (内容)	有			
授業概要		小学校での児童との直接的教育活動を通して、授業実践力、児童指導研究、学級経営、学校校務等を体験し、理解することによって学校教育実践力の基礎を体得する。										実習のため。 指導案作成、授業の準備、 教育実習反省報告会の準備など。								
授業の 到達目標		将来、小学校教員としての資質を身につけるために、大学における学習を基に現場での体験を通して、教育への情熱、児童成長のための愛情精神と指導法および教育者としての校務の基本を体得する。																		
単位認定の要件		実習終了後、各実習校からの評価から本学所定の評価基準に基づき単位化する。																		
授業計画 (予習、復習の内容・ 時間含む)		内 容																		
		【実習校および実習期間】 ・実習校は弘前市公立小学校(市内教育実習協力校)、青森市内公立小学校、黒石市内公立小学校、藤崎町内公立小学校 ・実習期間は8月中旬～9月中旬までの18日間(土日、祝日を除く。詳細は各実習校の日程に従う)。																		
		【ガイダンス・事前準備】 ・実習準備として事前にガイダンスを数回行う。実習希望者は必ず出席すること。 ・また「事前事後指導」(1単位)において実習にあたっての心構えや校務に関する予備知識および教育活動の基本を学ぶ。 ・実習参加にあたっては各教育委員会の実習実施ガイドラインに従うこと。																		
		【実習内容】 ・学級活動や学習活動の観察、参加 ・学級運営のための実習(部分実習、全体実習) ・上記以外の学校運営に関わる校務に参加 ・実習中は実習録に日々の活動内容等を記録し、指導担当教員の確認を受ける。 ・実習終了後、実習の振り返りとして実習体験記録を作成し、実習生による反省会(3年次との交流会)で活動内容の報告を行う。 ・実習前は、学習指導に必要な教科単位の習得すること。実習中は健康管理に注意し、実習校では礼節をもって行動し、児童理解・教育現場の理解につとめる。																		
		【実習実施の認定方法】 ・教育実習に関し、実習希望者は本学履修規程により小学校教諭課程委員会による資格認定審査を3年次で受け、教授会において承認を得た後、学校教育体験実習 I を行う必要がある。																		
教科書・教材		『小学校学習指導要領解説』(文部科学省)、児童用教科書、教員用指導書																		
参考書・ 参考文献等		研究授業に必要な各教科のについての書籍など(各自が必要とするもの)																		
履修上の 注意等		教育実習を履修する者は、前期に実施される学校教育体験実習 I と後期に実施される学校教育体験実習 II もあわせて履修しなければならない。																		
実務経験との 関連		実務経験の有無	無																	

【2713】 専門教育科目 教職に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科									
教職実践演習			演習	齋藤雅俊・小林琢哉・齋藤昭・他	4年	後期	こども発達学科									
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無							
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士								
2	15	30		2		○	○		期末試験							
学士力の分類 当該科目で育成 できる主要な 分類項目	《知識・理解》		《汎用的技能》			《態度・志向性》			期末レポート							
	基礎知識の体系的理解	多文化・異文化 文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ	倫理観	社会的責任	生涯学習力	《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定した課題へ適用し、その課題を解決する能力》	授業内小テスト	20
当該科目の キーワード	《知識・理解》		4年間の教職課程を通して得た知識・理解についての振り返りと再確認									ワークシートや授業内提出物については返却する。				
	《汎用的技能》		ワークショップ形式のアクティブラーニングによる汎用的技能の形成									アクティブラーニングの有無 (内容)	有			
	《態度・志向性》		教員として必要不可欠な社会性や対人関係能力、使命感や責任感等の態度の形成													
授業概要	大学4年間で学んだ学習知と教育実習等で得られた教科指導力や生徒指導力の実践知との更なる統合を図り、教員としての使命感や責任感、教育的愛情に裏打ちされた確かな実践的指導力を有する教員としての資質の構築とその確認を行うために開設する。演習形態を中心として、講義、事例研究、グループ討論、発表、ロールプレイング、フィールドワーク、模擬授業等を組み合わせ実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱う。												ワークショップ形式の授業			
授業の 到達目標	教員としての資質の構築と確認 ①教員としての使命感や責任感、教育的愛情 ②教員としての社会性や対人関係能力 ③幼児・児童への理解や学級経営能力 ④教科・保育内容等の指導力等の構築と確認															
単位認定の要件	担当教員が各回ごとに評価を行い、その平均を最終的な総合評価とする。(各回課題に対する討論・発表:80点[配点内訳:教職実践力指標4事項につき各20点]+レポート等提出物:20点=100点)※基本的に欠席した回の評価は0点となるが、欠席等で欠席した場合に限り、授業内提出物分として追加課題等で一定の評価を認める場合がある。															
授業計画 (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容														
	1	本演習の目的と計画・これまでの学修の振り返り(齋藤 雅俊) 予習:(60分) Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。 復習:(60分) 授業の内容を振り返る。														
	2	教職の意義及び教員の役割に関する探求(齋藤 雅俊) 予習:(60分) Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。 復習:(60分) 授業の内容を振り返る。														
	3	教員としての使命感や子どもに対する責任感及び教育的愛情に関する探求(齋藤 雅俊) 予習:(60分) Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。 復習:(60分) 授業の内容を振り返る。														
	4	教員の職務内容及び教職員間の連携・協働に関する探究(齋藤 雅俊) 予習:(60分) Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。 復習:(60分) 授業の内容を振り返る。														
	5	教員組織の一員としての自覚に関する探求(小林 琢哉、新田史暁) 予習:(90分) 組織の一員として教員に求められる行動にはどのようなものがあるかを考え、まとめる。 復習:(90分) 授業を通じて教員組織の一員として行動する際のの自己の課題について考察する。														
	6	教員と保護者や地域の関係者との人間関係の構築等に関する探求(小林 琢哉、新田史暁) 予習:(90分) 学校と保護者や地域の関係者との連携に関する事例の概要を調べておく。 復習:(90分) 教員として保護者・地域の関係者とのように人間関係を築いていくかを考察しまとめる。														
	7	教員としての社会性や対人関係能力等に関する探求(小林 琢哉、新田史暁) 予習:(90分) 社会性や社会的スキルの定義や測定方法について調べる。 復習:(90分) 自分の対人関係能力のあり方を確認し、今後の課題を検討する。														
	8	幼児児童等への理解と学級経営等に関する探求(齋藤 昭、安川 由貴子、吉田 裕美子) 予習:(60分) 小)Googleクラスルームに掲載した講義資料の課題について自分の考えをまとめておく。(90分 幼) 期別 発達の姿とわらい)作成について 復習:(90分 小)講義資料をもとに講義内容を復習する。(90分 幼) 5領域についての理解														
	9	学級経営に関する具体案の作成とその検討(齋藤 昭、安川 由貴子、吉田 裕美子) 予習:(60分) 小)Googleクラスルームに掲載した講義資料の課題について自分の考えをまとめておく。(90分 幼) 期別計画と指導計画について 復習:(90分 小)講義資料をもとに講義内容を復習する。(90分 幼) 期案と週案の違いや書き方について														
	10	教員としての社会性、対人関係能力、幼児児童等への理解と学級経営等に関する探求(齋藤 昭、安川 由貴子、吉田 裕美子、ゲストスピーカー) 予習:(60分) 小)Googleクラスルームに掲載した講義資料の課題について自分の考えをまとめておく。(90分 幼) 事例「クラスがバラバラ」「みんなで力を合わせよう」についての検討 復習:(90分 小)講義資料をもとに講義内容を復習する。(90分 幼) クラス経営についての理解														
	11	小学校教科・幼稚園保育内容等の指導力等に関する探求①(齋藤 昭、安川 由貴子、吉田 裕美子) 予習:(60分) 小)Googleクラスルームに掲載した講義資料の課題について自分の考えをまとめておく。(90分 幼) 模擬保育について 復習:(90分 小)講義資料をもとに講義内容を復習する。(90分 幼) 模擬保育の手順や流れの把握、準備の確認をする。														
	12	小学校教科・幼稚園保育内容等の指導力等に関する探求②(齋藤 昭、安川 由貴子、吉田 裕美子) 予習:(60分) 小)Googleクラスルームに掲載した講義資料の課題について自分の考えをまとめておく。(90分 幼) 模擬保育(1班)について 復習:(90分 小)講義資料をもとに講義内容を復習する。(90分 幼) 模擬保育についての反省と振り返り、講評。														
	13	小学校教科・幼稚園保育内容等の指導力等に関する探求③(齋藤 昭、安川 由貴子、吉田 裕美子) 予習:(60分) 小)Googleクラスルームに掲載した講義資料の課題について自分の考えをまとめておく。(90分 幼) 模擬保育(2班)について 復習:(90分 小)講義資料をもとに講義内容を復習する。(90分 幼) 模擬保育についての反省と振り返り、講評。														
	14	小学校教科・幼稚園保育内容等の指導力等に関する探求④(齋藤 昭、安川 由貴子、吉田 裕美子) 予習:(60分) 小)Googleクラスルームに掲載した講義資料の課題について自分の考えをまとめておく。(90分 幼) 模擬保育(3班)について 復習:(90分 小)講義資料をもとに講義内容を復習する。(90分 幼) 模擬保育についての反省と振り返り、講評。														
15	14回の総括と確認結果に基づく本演習の補充・再総括と確認(まとめ)(齋藤 雅俊 他) 予習:(60分) Googleクラスルームにおいてある授業の資料を読んでおく。 復習:(60分) 授業の内容を振り返り、自己評価をする。															
教科書・教材	授業中に適宜紹介する。															
参考書・参考文献等	授業中に適宜紹介する。															
履修上の 注意等	授業内活動が中心となる授業であり、追・再試もできない性格のものであるため、欠席は極力控えること。また、『ポートフォリオ』を活用した振り返りと残された課題等の発見に留意し、ポートフォリオの最終ページを飾るレポート作成に心がけること。															
実務経験との 関連	実務経験の有無	有	(齋藤昭)小学校現場における指導経験のある教員が、その経験を生かして、教材研究、授業展開、児童理解、生徒指導、学習評価の仕方などについて、具体的に指導していく。													

【2714】 専門教育科目 教育の基礎的理解・実践等に 関する科目		授業形態		担当教員名		開講年次	開講時期	開講学科										
学校教育体験実習Ⅰ(小)		実習		教職課程委員会(小)		4年	前期	こども発達学科										
単位数	授業回数	時間数	卒業要件					免許・資格					単位認定の方法と フィードバックの有無					
			必修		選択			小学校	幼稚園	保育士								
1			1					○					実習校の評価	80	有			
学士力の分類 当該科目で育成 できる主要な 分類項目	《知識・理解》			《汎用的技能》					《態度・志向性》					《獲得した能力を総合的に 利用し、自ら設定した課題へ適 用し、その課題を解決する能力》 その他	委員会の評価	20	有	
	基礎知識の体系的理解	多文化・異文化	文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ	倫理観	社会的責任		生涯学習力	計	100	
	○	—	—	○	—	○	—	○	○	○	—	○	○		—	○	フィードバックの方法	
	《知識・理解》			校務に関する総合的な理解											実習校から出される所見および 日々の活動記録、レポートを返却 し、講評する。			
	《汎用的技能》			信頼関係の構築											アクティブラーニングの有無 (内容)		有	
《態度・志向性》			教員としての倫理観										実習のため。 授業の準備、観察、補助。 活動内容の記録、 指導案作成など。					
授業概要		青森県内の実習協力校にて実際に学校教育活動に参加し、小学校の一日および一年間の様子を体験する。児童や学級担任、小学校教員たちとの交流と活動を通し、小学校教諭に必要な基礎知識と基本的指導力を育成する。またこの実習での経験と学びを、教育実習の場で活かし、実習内容の充実を図る。																
授業の到達目標		教育実習の準備段階として、学校生活の基礎・基本を体得する。配属された学級の学習活動に参加し、児童理解や学級経営、授業の準備や展開方法などの基礎知識を学ぶ。																
単位認定の要件		日々の活動記録と実習終了後のレポート提出および実習校からの成績表の点数化により単位認定を行う。																
授業計画 (予習、復習の内容・時間含む)		<p align="center">内 容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間および回数 原則として5月～7月 週1回(火曜日/8:00～16:00(実習校に従う)) 計10回 ・体験実習校 弘前市公立小学校(市内教育実習協力校)、青森市内公立小学校、黒石市内公立小学校、藤崎町内公立小学校 ・主な活動 <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校の教育方針、学校行事、日課について理解する。 2. 学級と児童との関わり、対応の考え方、方法等を観察しながら学習する。 3. 学習指導と学級経営の基本的技術を学ぶ。 4. 担当教員の指導のもと、授業補助や準備、ドリルの採点などに携わる。 5. クラブ活動や様々な教育活動に取り組む。 <p>* 大学での事前指導・ガイダンスの内容を踏まえ、実習校の教育活動を妨げてはならない。 * 実習中は、実習校にて出勤簿に捺印し、日々の活動記録を担当教員に提出する。 * 実習後は、報告・日々の活動記録を小学校教諭課程委員会へ提出すること。 * 教師となる意思を持ち、10回の実習をやり遂げるために、自己管理や健康管理に努める。 * 体験実習校と相談し確認しながら、また受けた助言は真摯に受け止め、前向きな姿勢で体験実習に取り組むこと。 * 実習実施については関係各署の指示に従うこと。</p> <p>【授業時間外学習の指示】 ・配属された学校、学級、児童を理解するために、また教育活動で何が必要かなど、自分に不足しているものを把握し、実習日の事前や事後に学習すること。</p> <p>【実習実施の認定方法】 ・実習希望者は本学履修規程により小学校教諭課程委員会による資格認定審査を3年次で受け、教授会において承認を得なければならない。 ・資格認定の審査内容については実習ガイダンスで別途説明する。 ・実習先は、承認を受けた者の希望をもとに小学校教諭課程委員会が調整し決定する。</p>																
教科書・教材		特になし。※教育活動や児童理解に必要なと思われる書籍や情報は積極的に活用・勉強し、現場理解に努めること。																
参考書・参考文献等		令和7年度 学校教育体験実習Ⅰ 小学校教育実習 体験録『成長の足跡』を読み、実習校と実習内容について学んでおくこと。																
履修上の注意等		学校教育体験実習Ⅰ履修者は教育実習および学校教育体験実習Ⅱもあわせて履修しなければならない。																
実務経験との関連		実務経験の有無	無															

【2715】 専門教育科目 教育の基礎的理解・実践等に 関する科目		授業形態		担当教員名		開講年次	開講時期	開講学科											
学校教育体験実習Ⅱ(小)		実習		教職課程委員会(小)		4年	後期	こども発達学科											
単位数	授業回数	時間数	卒業要件					免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無								
1			必修		選択			小学校	幼稚園	保育士									
					1			○			実習校の評価	80	有						
学士力の分類 当該科目で育成 できる主要な 分類項目	《知識・理解》			《汎用的技能》					《態度・志向性》			《獲得した能力を総合的に 利用し自ら設定した課題へ適 用し、その課題を解決する能力》	委員会の評価	20	有				
	基礎知識の体系的理解	多文化・異文化	文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ		倫理観	社会的責任	生涯学習力				
	○	-	-	○	-	○	○	○	○	○	○		○	○	-	○			
当該科目の キーワード	《知識・理解》			児童・校務理解、指導力								実習校から出される所見および 日々の活動記録、レポートを返却 し、講評する。							
	《汎用的技能》			コミュニケーション・スキル 問題解決力															
	《態度・志向性》			教員としての倫理観									アクティブラーニングの有無 (内容)		有				
授業概要	学校教育体験実習Ⅰ、教育実習での教育体験に引き続き、教育者としての資質および実践力向上のために、学校教育活動全般について学ぶ。将来の教育活動に役立つようになるとともに、体験実習校の教育活動充実のための補助・支援活動に参加する。											実習のため。 授業の準備・補助、 教育実習反省報告会の準備や 発表など。							
授業の 到達目標	教育実習終了後、さらに教員としての役割、責任、喜びを実感し、教育活動の総合的な能力を高め、教員としての資質および実践的な指導力を向上させる。																		
単位認定の要件	日々の活動記録と実習終了後のレポート提出、実習校からの成績を点数化し単位認定を行う。																		
授業計画 (予習、復習の内 容・時間含む)	内 容																		
	<p>・期間および回数 10月～12月 週1回(金曜日/8:00～16:00(実習校の指示に従う)) 10回</p> <p>・体験実習校 弘前市公立小学校(市内教育実習協力校)、青森市内公立小学校、黒石市内公立小学校、藤崎町内公立小学校</p> <p>・主な活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育方針、学校行事、日課について理解する。 2. 学級と児童との関わり、対応の考え方、方法等も観察しながら学習する。 3. 学習指導および学級経営の技術指導法と技術の基礎を学ぶ。 4. 教員指導のもと、授業補助や準備、ドリルの採点補助などに携わる。 5. クラブ活動や様々な教育活動に取り組む。 <p>* 大学での事前指導・ガイダンスの内容を踏まえ、実習校の教育活動を妨げてはならない。 * 実習中は、実習校にて出勤簿に捺印し、日々の活動記録を担当教員に提出する。 * 実習後は報告、日々の活動記録を委員会に提出する。 * 体験実習Ⅰおよび教育実習で習得したことを更に向上させるためにも、謙虚な姿勢を忘れずに意欲的に取り組む。 * 感染症対策については関係各署の指示に従うこと。</p> <p>【授業時間外学習の指示】 ・体験実習Ⅰおよび教育実習で得た知識や技術の定着と向上、不足しているものを補完するために必要なことを学習すること。</p> <p>【実習実施の認定方法】 ・実習希望者は本学履修規程により小学校教諭課程委員会による資格認定審査を3年次で受け、教授会において承認を得た後、学校教育体験実習Ⅰおよび教育実習を行わなければならない。 ・資格認定の審査内容については実習ガイダンスで別途説明する。 ・実習先は、学校教育体験実習Ⅰ・教育実習と同じ小学校。</p>																		
教科書・教材	『小学校学習指導要領解説』(文部科学省)、児童用教科書、教員用指導書など																		
参考書・ 参考文献等	特になし ※ただし教育活動や児童理解に必要と思われる書籍や情報は積極的に活用し、現場理解に努めること。																		
履修上の 注意等	実習希望者は4年次年度初めに本学学則により資格認定審査を受け、教授会において承認を得る。 学校教育体験実習Ⅱは学校教育体験実習Ⅰおよび教育実習とあわせて履修しなければならない。																		
実務経験との 関連	実務経験 の有無	無																	

【2801】 専門教育科目 保育士に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科														
子ども家庭福祉Ⅰ			講義	藤林秀	4年	前期	こども発達学科														
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無												
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士													
2	15	30		2				○	期末試験 50 有												
学士力の分類 当該科目で育成 できる主要な 分類項目	《知識・理解》		《汎用的技能》			《態度・志向性》					《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定し、自ら課題へ適し、その課題を解決する能力》	期末レポート									
	基礎知識の体系的理解	多文化・異文化	文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク		リーダーシップ	倫理観	社会的責任	生涯学習力	授業内小テスト					
	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	計 100		
当該科目の キーワード	《知識・理解》		子どもの社会課題を福祉的視点で理解する、社会課題可決を実現するための視座を得る							期末試験は、採点後合否結果を希望に応じてフィードバックする。授業内活動及び提出物は、受講者全体にコメントすることで、授業内容をふり振り返り理解を深めることとする。	フィードバックの方法										
	《汎用的技能》		子どもの状況を論理的に把握する力、多職種と協働し、支援に繋げる問題解決能力								アクティブラーニングの有無(内容)		有								
	《態度・志向性》		子どもの権利を尊重し、他者と協力して課題解決に主体的に取り組む姿勢																		
授業概要	社会福祉士養成課程の専門的知見を基に、子どもの権利擁護の理念と現代の多様な家庭が抱える福祉課題解決への理解を養います。児童虐待や貧困といったケーススタディに対して、グループワークやディスカッションを通じて、「子どもの最善の利益」を実現できる専門性について説明します。									発表、グループディスカッション、グループワーク、調査学習											
授業の到達目標	①子ども家庭福祉の理念・法制度を把握し、子どもや家庭の多様な困難を「子どもの権利」の視点から把握・分析できる能力を養う。 ②地域資源と協働して子ども家庭福祉の諸課題等について、自己の見解を口頭及び文章を通して説明できる。																				
単位認定の要件	到達目標に対して総合的に評価し、合計点が60点以上であること。																				
授業計画 (予習、復習の内容・時間含む)	回	内 容																			
	1	オリエンテーション、子ども家庭福祉とは 予習:(90分)シラバスや教科書pp.1~22, pp.212~215を読み、子ども家庭福祉の重要性について考えておく。 復習:(90分)授業内容をふり振り返り、子ども家庭福祉の重要性を要約し、自分の考えをまとめる。																			
	2	子ども家庭福祉の理念 予習:(90分)教科書pp.1~22, pp.212~215を読み、子ども家庭福祉の理念について考えておく。 復習:(90分)授業内容をふり振り返り、子ども家庭福祉の理念について要約し、自分の考えをまとめる。																			
	3	子ども家庭福祉の歴史の変遷と諸外国の動向 予習:(90分)教科書pp.24~32を読み、子ども家庭福祉の歴史の変遷と諸外国の動向について考えておく。 復習:(90分)授業内容をふり振り返り、子ども家庭福祉の歴史の変遷と諸外国の動向について要約し、自分の考えをまとめる。																			
	4	子どもの人権擁護と児童の権利に関する条約 予習:(90分)教科書pp.2~15, pp.29~32を読み、子どもの人権擁護や児童の権利に関する条約について考えておく。 復習:(90分)授業内容をふり振り返り、子どもの人権擁護や児童の権利に関する条約の内容について要約し、自分の考えをまとめる。																			
	5	戦後の子ども家庭福祉の展開と子どもの健全育成 予習:(90分)教科書pp.30~33, pp.109~112を読み、戦後の子ども家庭福祉の展開と子どもの健全育成について考えておく。 復習:(90分)授業内容をふり振り返り、戦後の子ども家庭福祉の展開と子どもの健全育成の取り組みについて要約し、自分の考えをまとめる。																			
	6	子ども・家庭を取り巻く現代社会 予習:(90分)教科書pp.13~18, pp.44~51, pp.170~175, p.260~263を読み、子ども・家庭を取り巻く現代社会について考えておく。 復習:(90分)授業内容をふり振り返り、子ども・家庭を取り巻く現代社会について要約し、自分の考えをまとめる。																			
	7	子ども家庭福祉の法体系、子ども・子育て支援制度の創設、子ども家庭福祉専門職 予習:(90分)教科書pp.54~109, pp.216~227を読み、法体系、子ども・子育て支援制度、子ども家庭福祉専門職について考えておく。 復習:(90分)授業内容をふり振り返り、法体系、子ども・子育て支援制度、子ども家庭福祉専門職について要約し、自分の考えをまとめる。																			
	8	母子保健と外国にルーツがある子どもと家庭への支援 予習:(90分)教科書pp.113~120, pp.200~203, pp.232~235を読み、母子保健と外国にルーツがある子どもと家庭への支援について考えておく。 復習:(90分)授業内容をふり振り返り、母子保健と外国にルーツがある子どもと家庭への支援の取り組みについて要約し、自分の考えをまとめる。																			
	9	多様な保育ニーズへの対応 予習:(90分)教科書pp.121~130, pp.228~231, pp.236~239を読み、多様な保育ニーズへの対応について考えておく。 復習:(90分)授業内容をふり振り返り、多様な保育ニーズへの対応について要約し、自分の考えをまとめる。																			
	10	児童(子ども)虐待の防止 予習:(90分)教科書pp.85~92, pp.131~144, pp.216~227, pp.240~247を読み、児童(子ども)虐待の防止について考えておく。 復習:(90分)授業内容をふり振り返り、児童(子ども)虐待防止について要約し、自分の考えをまとめる。																			
	11	ひとり親家庭への支援とドメスティック・バイオレンス(DV)の防止 予習:(90分)pp.154~169, pp.252~259を読み、ひとり親家庭への支援とドメスティック・バイオレンス(DV)の防止について考えておく。 復習:(90分)授業内容をふり振り返り、ひとり親家庭への支援とドメスティック・バイオレンス(DV)の防止について要約し、自分の考えをまとめる。																			
	12	社会的養護と少年非行等への対応 予習:(90分)教科書pp.145~153, pp.170~189, pp.248~251, pp.260~267を読み、社会的養護と少年非行等への対応について考えておく。 復習:(90分)授業内容をふり振り返り、社会的養護と少年非行等への対応について要約し、自分の考えをまとめる。																			
	13	障がいのある子どもと家族への対応 予習:(90分)教科書pp.190~199, pp.268~271を事前に読み、障がいのある子どもと家族への対応について調べる。 復習:(90分)授業内容をふり振り返り、障がいのある子どもと家族への対応について要約し、自分の考えをまとめる。																			
	14	地域における連携・協働とソーシャルワーク 予習:(90分)教科書pp.204~209, pp.212~227, pp.272~275を読み、地域における連携・協働とソーシャルワークについて考える。 復習:(90分)授業内容をふり振り返り、地域における連携・協働とソーシャルワークについて要約し、自分の考えをまとめる。																			
	15	少子高齢社会における子ども家庭福祉の今後の展望と課題 予習:(90分)第1回~第14回までの授業内容をふり振り返り、期末の取り組みに備える。 復習:(90分)第15回までの講義内容をふり振り返り、少子高齢社会における子ども家庭福祉の今後の展望と課題について、自分の考えをまとめる。																			
教科書・教材	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟(2025)『最新 社会福祉士養成講座 3 児童・家庭福祉 第2版』中央法規																				
参考書・参考文献等	講義内で適宜案内する。																				
履修上の注意等	グループワークを適宜行うため、受講者全員の協力姿勢、自分の見解を文章や口頭で他者に伝える力が求められる。真摯に学ぶ姿勢や主体的な参加は前向きに受け止め、授業への貢献度として加味する。																				
実務経験との関連	実務経験の有無	有	保育士としての業務、保育園内での研修講師、地域活動における居場所活動、学会発表等での実務経験をもとに、子ども家庭福祉の理念、多職種連携の意義を把握し、実践的指導力を身に付ける。																		

【2807】 専門教育科目 保育士に関する科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科			
子ども家庭支援論			講義	安川由貴子	4年	前期	子ども発達学科			
単位数	授業回数	時間数	卒業要件			免許・資格			単位認定の方法と フィードバックの有無	
			必修	選択		小学校	幼稚園	保育士		
2	15	30		2				○	期末試験	
学士力の分類 当該科目で育成できる主要な分類項目	≪知識・理解≫ 基礎知識の体系的理解 多文化・異文化 文化・社会・自然		≪汎用的技能≫ コミュニケーションスキル 数量的スキル 情報リテラシー 論理的思考力 問題解決力			≪態度・志向性≫ 自己管理能力 チームワーク リーダーシップ 倫理観 社会的責任 生涯学習力			《獲得した能力を総合的に利用し、自ら設定し、その課題を解決する能力》 期末レポート 50 無 授業内小テスト 授業内提出物 30 有 授業内活動 20 有 その他 計 100 フィードバックの方法	
	○ ○ ○		○ — ○ ○ ○			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○				
	○ ○ ○		○ — ○ ○ ○			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○				
	○ ○ ○		○ — ○ ○ ○			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○				
当該科目のキーワード	≪知識・理解≫ ≪汎用的技能≫ ≪態度・志向性≫		社会の変化と子育て家庭の現状と課題についての理解 子ども家庭支援の多様な展開 連携して子ども家庭支援をしていく力の育成							ミニ発表用の授業内提出物は、受講者分を印刷し、発表時に内容を共有する。コメントペーパーの内容や質問は授業内に適宜共有し、学びを深める手立てとする。 アクティブラーニングの有無(内容) 有
	保育士は、保護者の子育ての問題や課題に対しての支援と、地域の子育て家庭への支援が必要とされている。授業では、子ども家庭支援の必要性を認識し、その意義や目的を学べるよう解説する。また、保育の専門性を活かした家庭支援のあり方について学び、それを支える社会資源や施策等の子育て支援体制を踏まえ、具体的な支援方法について理解を深められるよう、調査・発表の機会を設ける。そして、これからの子ども家庭支援のあり方について考えられるよう、解説やグループ討議を行う。									グループディスカッション、発表、調査学習
	授業の到達目標		1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し考察できる。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解し説明できる。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解し説明できる。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解し考察できる。							
単位認定の要件		到達目標に対し、総合的に評価して合計が60点以上であること。								
授業計画(予習、復習の内容・時間含む)		回	内容							
		1	子ども家庭支援の意義と役割(1)子ども家庭支援の意義と必要性 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識をもち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。							
		2	子ども家庭支援の意義と役割(2)子ども家庭支援の目的と機能 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識をもち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。							
		3	保育士による子ども家庭支援の意義と基本(1)保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識をもち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。							
		4	保育士による子ども家庭支援の意義と基本(2)子どもの育ちの喜びの共有 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識をもち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。							
		5	保育士による子ども家庭支援の意義と基本(3)保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識をもち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。							
		6	保育士による子ども家庭支援の意義と基本(4)保育士に求められる基本的態度(受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等) 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識をもち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。							
		7	保育士による子ども家庭支援の意義と基本(5)家庭の状況に応じた支援 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識をもち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。							
		8	保育士による子ども家庭支援の意義と基本(6)地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識をもち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。							
		9	子育て家庭に対する支援の体制(1)子育て家庭の福祉を図るための社会資源 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識をもち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。							
		10	子育て家庭に対する支援の体制(2)子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進(調査・発表1) 予習:(90分)自治体や園の子育て支援の取り組みについて情報収集し、発表資料としてまとめること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。							
		11	子育て家庭に対する支援の体制(3)子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進(調査・発表2) 予習:(90分)自治体や園の子育て支援の取り組みについて情報収集し、発表資料としてまとめること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。							
		12	多様な保育の展開と関係機関との連携(1)子ども家庭支援の内容と対象 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識をもち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。							
		13	多様な保育の展開と関係機関との連携(2)保育所等を利用する子どもの家庭への支援 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識をもち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。							
		14	多様な保育の展開と関係機関との連携(3)地域の子育て家庭への支援 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識をもち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。							
		15	多様な保育の展開と関係機関との連携(4)要保護児童等及びその家庭に対する支援、子ども家庭支援に関する現状と課題 予習:(90分)テーマについて情報収集し、問題意識をもち考えてくること。 復習:(90分)授業の振り返りを通して、内容理解に努めること。また、新たに出てきた用語や疑問について、自ら調べる姿勢を大切にすること。							
教科書・教材		レジューム資料を配付する。厚生労働省編『保育所保育指針』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館。								
参考書・参考文献等		厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館。授業中に適宜紹介する。								
履修上の注意等		社会に広く目を向け、子ども家庭支援を身近なこととして捉えて授業に臨んでください。ミニ発表やグループワーク、調べ学習も取り入れるので、積極的な参加を期待します。								
実務経験との関連		実務経験の有無	無							

